

2021年12月吉日

協賛企業 御中

ナノ学会会長 寺寄 亨（九州大学 教授）  
第20回大会実行委員長 若林知成（近畿大学 教授）

## ナノ学会第20回大会趣意書

拝啓 貴社ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、2022年5月20日（金）から22日（日）の3日間にわたり、近畿大学にて「ナノ学会第20回大会」を開催する運びとなりました。

「ナノ学会」は2002年に日本のナノサイエンスおよびナノテクノロジーの総合学会を目指して、「超微粒子とクラスター懇談会」（1997年設立）を改組・発展する形で発足致しました。本学会の使命は、基礎から応用にわたるナノサイエンスおよびナノテクノロジーに関わる産学官の研究者が、従来の学会の枠を超えて分野横断的に情報・意見交換を行うことによって我が国におけるナノテクノロジー分野の学術基盤を確立し、新産業技術を創出することにあります。これまでに歴代会長（仁科雄一朗氏、茅幸二氏、川添良幸氏、曾根純一氏、佃達哉氏）のもとで学会としての基盤が整備されて発展を遂げ、2020年からは寺寄亨会長（九州大学）のリーダーシップのもと、活発な学会活動を繰り広げております。ナノ学会は、「ナノ構造・物性」、「ナノ機能・応用」、「ナノバイオ・メディシン」の三部会で構成されており、シンポジウムなどの企画を通して専門的な知識の習得や情報の交換のための場を会員に提供しています。また、学会誌「*Bulletin of the Nano Science and Technology*」の発行や若手研究者を後押しするための顕彰活動を行っています。

毎年一回開催されるナノ学会大会は、2003年に学会創立大会が神戸で開催されて以来、日本各地で毎年開催され、毎回数百名の方々にご参加いただいております。最先端のナノ科学技術の研究成果を持ち寄り、企業展示とともに、より分野・産学横断的な人材交流や情報交換の機会を提供しています。この大会は、ナノ科学技術分野のフロントランナーの講演に触発されることで、新しい発想や着想が生まれる可能性に満ちています。また、第20回大会が開催される近畿大学は、ナノ学会の前身である「超微粒子とクラスター懇談会」の初代会長 藤田廣志先生（大阪大学名誉教授・日本学士院会員）が理工学総合研究所教授として高圧電子顕微鏡に関するご研究を続けられたご縁の深い地であり、近畿大学に皆様をお招きできることを大変嬉しく存じます。

本大会開催に必要な経費は、基本的には参加者の参加登録費と協賛団体および基金団体からの資金で賄われております。経費節減のため、関係者一同あらゆる努力を重ねておりますが、開催費用の捻出に苦慮している状況にあります。このような状況を打開するため、法人の皆様のご援助をお願い申し上げます。いまだ厳しい経済情勢ではありますが、我が国の科学技術における「ナノ学会」の果たすべき役割をご賢察のうえ、ご支援いただきますことを、切にお願い申し上げます。

本趣意書では、協賛、予稿集広告掲載、併設展示会（機器・書籍）募集書をつけております。末筆ながら、貴社、貴団体の益々のご発展をお祈り申し上げます。

敬具